

設問別調査結果 [中学校国語A:主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4		74.2
	書くこと	5		71.1
	読むこと	8		76.6
	言語事項	18		75.8
問題形式	選択式	21		71.2
	短答式	14		81.0
	記述式	0		

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			問題形式			札幌市		全国(公立)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 … + 3.1ポイント以上 … + 0.1ポイント～3.0ポイント - … ほぼ同程度 … - 0.1ポイント～ - 3.0ポイント … - 3.1ポイント以下													
1	百人一首の上の句に続く下の句を選択する	現代語訳を参考にして古文の内容をとらえる									0.2	83.6	0.2
2	書き手が用いた根拠の不十分さを指摘したものと適切なものを選択する	述べている内容とその根拠との関係について考える									0.2	82.6	0.3
3一	演説の話し方の特徴として適切なものを選択する	表現の仕方に注意して説得力のある話をする									0.3	58.9	0.5
3二	演説の際、聞き手が重視して聞いているものとして適切なものを選択する	話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取る									0.3	73.9	0.6
4一	修飾語に合わせて述語の部分の適切に書き直す	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする									2.7	90.1	3.6
4二	一文を二文に分けて書く										5.2	41.4	5.7
5一	「ぼく」が悲しくなってきた理由として適切なものを選択する	文章の展開に即して内容をとらえ、登場人物の心情について考える									0.3	84.2	0.3
5二	文章の表現の特徴として適切なものを選択する	文章の特徴をとらえる									0.4	75.7	0.4
6一	体言止めを用いている行の番号を詩の中から選択する	表現の仕方に注意し、その効果を考える									1.0	69.6	1.0
6二	解説文にある言葉と同じ内容を表す言葉を詩の中から抜き出す	文脈の中における語句の意味を理解する									2.0	86.3	2.6
7一	提案に対する適切な質問を選択する	目的に沿った話合いになるように、適切に質問する									0.4	81.7	0.5
7二	話合いの中での発言のもつ役割として適切なものを選択する	話合いを効果的に展開させる発言の役割について理解する									0.6	82.4	0.6
8一	「鳥とは違う」カモノハシの特徴を選択する	論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解する									0.5	56.6	0.5
8二	「ひどい文章」の説明として適切なものを選択する	文章の展開に即して内容を理解する									1.0	74.5	1.0
9一ア	案内文に必要な項目の名称を書く	伝えるべき内容について整理して書く									3.4	69.8	4.0
9一イ											3.3	93.5	3.7
9二	小学生に向けた案内文となるように適切な文を書く	相手に応じて表現を工夫して書く									7.9	60.9	9.3

2 身の回りの情報を読む

【2】は、身の回りにおける情報を読む際に、述べている内容とその根拠との関係について考えることができるかどうかをみる設問である。設問一では、述べている内容とその根拠との関係について考えることができるかどうかについて、選択式で問われている。

【設問一】述べている内容とその根拠との関係について考えること

- ・書き手が用いた根拠の不十分さを指摘したのものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

「読むこと」領域における「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること」については、全国の平均正答率と比較して、上回っている結果となった。

身の回りにおける様々な情報を読む際には、その情報をそのまま受け止めるのではなく、述べられている内容とその根拠との関係が適切なものであるかどうかを考えさせる必要がある。また、生徒自らが情報を収集し、その情報をもとに自分の考えをまとめたり発表したりする学習活動に取り組む場合には、収集した情報をそのまま根拠として用いるのではなく、自分の考えや主張内容を支える適切な根拠となっているのかどうかを吟味させることで、必要に応じて修正を加え、より説得力のある表現を目指すことも重要な学習活動となる。

3 スピーチを聞く

【3】は、話したり聞いたりする際に、表現の仕方に注意して説得力のある話をする事と、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ることができるかどうかをみる設問である。設問一では、表現の仕方に注意して説得力のある話をする事と、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ることができるかどうかについて、設問二では、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ることができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】表現の仕方に注意して説得力のある話をする事

- ・演説の話し方の特徴として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

【設問二】話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ること

- ・演説の際、聞き手が重視して聞いているものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりすること《語句や文》」については、全国の平均正答率を上回っている。また、同じ領域の「自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること《考えや意図》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回る結果となった。

スピーチという言語活動を通して、表現の仕方について指導する際には、自分の考えや立場を明確にして聞き手に分かりやすく伝えようとする姿勢が大切であることと併せて、スピーチの内容だけではなく、一文の長さや文の組み立て方、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意するなどの話し方についても意識させる必要がある。また、話し手の意図を考えることを指導する際には、目的をもち、聞こうとする観点を明らかにして相手（話し手）の考えを聞き取らせる必要がある。

4 下書きを推敲する

【4】は、文章を書く際に、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることができるかどうかをみる設問である。設問一では、修飾語に合わせて述語を書き直すことができるかどうかを、設問二では、一文を二文に分けて書くことができるかどうかを、それぞれ短答式で問われている。

【設問一】修飾語に合わせて述語を書き直すこと

- ・修飾語に合わせて述語の部分の適切に書き直す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っており、正答率が高い。

【設問二】二つの内容を含み分かりにくくなっている文を適切に二文に分けて書くこと

- ・一文を二文に分けて書く設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているが、正答率は低い。

「書くこと」領域における「書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること《推敲》」については、全国の平均正答率をやや上回るか上回る結果となった。

推敲の指導では、表記や語句の用法を修正する他に、主述や修飾・被修飾など語句同士の関係や段落相互の関係の整合性を点検させるなどの学習活動を設定し、具体的に指導する必要がある。

5 文学的な文章を読む

⑤は、文章の展開に即して内容をとらえ、登場人物の心情について考えることと、文章の特徴をとらえることができるかどうかをみる設問である。設問一では、文章の展開に即して内容をとらえ、登場人物の心情について考えることができるかについて、設問二では、文章の特徴をとらえることができるかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】文章の展開に即して内容をとらえ、登場人物の心情について考えること

- ・「ぼく」が悲しくなってきた理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】文章の特徴をとらえること

- ・文章の表現の特徴として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること《内容把握や要約》」及び「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、それぞれ全国の平均正答率と比較して、やや上回る結果となった。

文学的な文章を読む際に、内容をより深く理解させ味わわせるためには、登場人物の言動や心情とともに、その言動や心情が変化するきっかけになったことについても着目させる必要がある。また、文章の特徴に着目させることは、作者の意図や表現の効果について考えることにつながるから大切な学習活動となる。

6 詩と解説文を読む

⑥は、表現の仕方に注意し、その効果を考えることと、文脈の中における語句の意味を理解することができるかどうかをみる設問である。設問一では、表現の仕方に注意し、その効果を考えることができるかについて選択式で、また、設問二では、文脈の中における語句の意味を理解することができるかについて短答式で、それぞれ問われている。

【設問一】表現の仕方に注意し、その効果を考えること

- ・体言止めを用いている行の番号を詩の中から選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

【設問二】文脈の中における語句の意味を理解すること

- ・解説文にある言葉と同じ内容を表す言葉を詩の中から抜き出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っており、正答率も高かった。

「読むこと」領域における「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、全国の平均正答率を上回る結果となり、また、同じ領域の「文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること《語句の意味や用法》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回る結果となり、正答率も高かった。

詩を読み味わう際には、表現の仕方や文章の特徴に注意して読ませることが大切である。文脈における語句の効果的な使い方について理解することで、自分の言葉の使い方にも役立てることが可能となる。自ら創作した詩の解説文を書く学習活動は、自分の表現の仕方を見直す機会にもなり、推敲する学習活動にもつながる。創作した作品について、発表し合う場を設定することで鑑賞し合ったり評価し合ったりする言語活動を取り入れることも効果的である。

7 話し合いをする

⑦は、目的に沿った話し合いになるように、適切に質問することと、話し合いを効果的に展開させる発言の役割について理解することができるかをみる設問である。設問一では、目的に沿った話し合いになるように、適切に質問することができるかどうかについて、設問二では、話し合いを効果的に展開させる発言の役割について理解することができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】目的に沿った話し合いになるように、適切に質問すること

- ・提案に対する適切な質問を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】話し合いを効果的に展開させる発言の役割について理解すること

- ・話し合いの中での発言のもつ役割として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「相手の立場や考え方を尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること《話し合い》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回る結果となった。

話し合いをする際には、互いの発言に対して、その意図や理由、根拠等が不明確な場合には、質問したり確認したりするなど、テーマとの関係を考えさせながら話し合い、目的に沿った話し合いになるよう注意させる必要がある。

また、話し合いを効果的に展開させるためには、話し合いの話題や方向をとらえて自分の考えをまとめ、新たな視点から提案するなど、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うよう指導することが大切である。

8 随筆を読む

⑧は、論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解することと、文章の展開に即して内容を理解することができるかをみる設問である。設問一では、論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解することができるかどうかについて、設問二では、文章の展開に即して内容を理解することができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解すること

- ・「鳥とは違う」カモノハシの特徴を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】文章の展開に即して内容を理解すること

- ・「ひどい文章」の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

「読むこと」領域における「書き手の論理の展開の仕方をつまみとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること《構成や展開》」については、全国の平均正答率をやや上回る結果となった。また、同じ領域の「文章の展開に即して内容をとりえ、目的や必要に応じて要約すること《内容把握や要約》」については、全国の平均正答率を上回る結果となった。

論理の展開の仕方をつまみとらえながら読む指導の際には、接続詞や指示語などに注意させ、内容のつながりを考えながら読み進めるよう指導する必要がある。また、複雑な事象を説明する文章を読む学習活動においては、内容の理解だけではなく、説明の仕方について注意して読むよう指導することで、自分の考えを述べる際に役立てようとする姿勢や論理的に表現しようとする能力を育成することができる。

9 案内文を書く

⑨は、伝えるべき内容について整理して書くことと、相手に応じて表現を工夫して書くことができるかをみる設問である。設問一では、伝えるべき内容について整理して書くことができるかどうかについて、設問二では、相手に応じて表現を工夫して書くことができるかどうかについて、それぞれ短答式で問われている。

【設問一】伝えるべき内容について整理して書くこと

- ・案内文に必要な項目の名称を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているかやや上回っている。

【設問二】相手に応じて表現を工夫して書くこと

- ・小学生に向けた案内文となるように適切な文を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

「書くこと」領域における「伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること《事柄や意見》」については、全国の平均正答率を上回るかやや上回る結果となった。また、同じ領域の「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと《記述》」については、全国の平均正答率を上回る結果となった。

実用的な文章の書き方等を指導する際には、文章の形式について理解させるとともに、伝えるべき内容を相手や目的に応じて簡潔に分かりやすく書くことが大切である。案内文を書く場合には、「日時」「場所」など一般的な事柄に加え、必要な事柄を過不足なく取り上げるようにすることが大切である。また、相手や目的、状況等に応じた適切な表現を考えさせるためには、様々な相手を想定して、それにふさわしい表現で案内文を作成する学習を取り入れることも大切なことである。

10 言語事項等

10は、言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうかをみる設問である。設問一では、文脈に即して漢字を正しく書くことについての三つの設問、設問二では、文脈に即して漢字を正しく読むことについての三つの設問、設問三では、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについての五つの設問、設問四では、単語の種別や働きについて理解し、同じような意味を表すように書き換えることについての二つの設問、設問五では、漢字の成り立ちについて理解する二つの設問、設問六では、辞書を活用して、ことわざの文脈における意味を理解することについての設問、設問七では、漢字の楷書と行書との違いを理解する設問、設問八では、目的に応じて、文字の大きさや配列、配置に気を付けて書く毛筆を使った書写についての設問で構成されている。

【設問一】文脈に即して漢字を正しく書くこと

- 1 「相談」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。
- 2 「公式」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を、上回っている。
- 3 「姿」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。

【設問二】文脈に即して漢字を正しく読むこと

- 1 「冒頭」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。
- 2 「衝撃」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。
- 3 「導（く）」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。

【設問三】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

- ア 適切な同音異義語（「過程」）を選択する設問では、全国の平均正答率を、上回っている。
- イ 適切な同訓異字（「採る」）を選択する設問では、全国の平均正答率を、やや下回り、正答率も低い。
- ウ 適切な語句（「ひとえに」）を選択する設問では、全国の平均正答率を、上回っている。
- エ 適切な敬語（「申して」）を選択する設問では、全国の平均正答率を、やや下回り、正答率も低い。
- オ 適切な語句（「性分」）を選択する設問では、全国の平均正答率を、上回っているが、正答率は低い。

【設問四】単語の種別や働きについて理解し、同じような意味を表すように書き換えること

- ・同じ意味になるように適切な一字を書く設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。

【設問五】漢字の成り立ちについて理解すること

- 1 部首（りっしんべん）の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。
- 2 部首（うかんむり）の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。

【設問六】辞書を活用して、ことわざの文脈における意味を理解すること

- ・国語辞典で調べたことをもとに、ことわざに込められた思いとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を、やや下回っている。

【設問七】漢字の楷書と行書との違いを理解すること

・行書の特徴の説明として適切なものを選択する設問では、全国平均正答率をやや上回っているが、正答率は低い。

【設問八】目的に応じて、文字の大きさや配列、配置に気を付けて書くこと

・読みやすくするための助言で適切なものを選択する設問では、全国平均正答率を、上回っている。

「言語事項」における「文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすること」については、全国平均正答率と比較して、上回るかやや上回っている状況にあるが、漢字を書く設問に対する無解答率が高い傾向にある。漢字は、語や語句として理解し、文章に即して使えるようにすることが大切である。今後も、学年別漢字配当表の漢字をはじめ、使用頻度の低いものを意図的に取り上げたり、同じ漢字を用いた他の語句と関連付けたりさせながら、確実に習熟を図るための指導を工夫することが必要である。

「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと」については、全国平均正答率と比較して、上回るかやや下回る傾向であった。語句・語彙の指導に当たっては、語句の辞書的な意味を踏まえ、話や文脈の中での意味をとらえさせる必要がある。語彙を豊かにするためには、類義語を取り上げるなどして、相手や場面に応じて使い分けてみたり、同音異義語を取り上げ、意味の違いについて考えたりする学習活動が有効である。併せて、同訓異字の「採る」は、正答率が約4割と低かったことから、「採決」などの熟語を想定して解決を図るなど、既習事項を活用して問題解決を図る指導の充実が必要である。敬語については、平成19年度は全国平均正答率をやや下回り、平成20・21年度はやや上回る状況だったが、今年度はやや下回る結果となった。身内には謙譲語を用いるなど基礎的な事柄を確認しながら、今後とも日常生活において適切な敬語を使うよう指導を充実させていく必要がある。また、文字数を制限して、伝えたい内容を意味を変えずに短く書き直したり、同じ内容を違った表現で言い換えたりするなどの学習活動を、書くことの指導と関連させながら取り組むことは有効である。「書写」指導において、行書の基礎を学習する段階では、同じ文字の楷書と行書を比較させ、筆順や運筆などの違いについて考えさせ、行書で書くといった学習活動につなげていくことも効果的である。

設問別調査結果 [中学校国語B:主として活用]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1		45.6
	書くこと	4		60.2
	読むこと	9		67.5
	言語事項	0		
問題形式	選択式	4		75.5
	短答式	3		64.0
	記述式	3		53.0

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 … +3.1ポイント以上 … +0.1ポイント～3.0ポイント … ほぼ同程度 … -0.1ポイント～-3.0ポイント … -3.1ポイント以下													
1一	トップ記事で紹介している施設が開設された年月を書く	書かれている情報を的確に関連付けて読む									2.3	74.7	2.4
1二	トップ記事とコラムとを比較し、書き方の特徴として適切なものを選択する	記事文における表現の仕方をとらえる									1.0	48.9	1.0
1三	新聞を読んで、興味をもった記事について感想を書く	記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書く									3.5	51.6	3.8
2一	提示する資料に表れている工夫として適切なものを選択する	資料の表現の仕方をとらえる									0.4	78.5	0.5
2二	提示する資料に、説明したい内容を簡潔に書く	文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書く									7.1	81.8	7.8
2三	資料の修正の方法を選択し、修正の具体的なやり方とその理由を書く	資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明する									10.2	45.6	10.3
3一A	前後の関係から語句の意味をとらえ、適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を的確にとらえる									0.5	85.3	0.7
3一B											0.5	89.2	0.8
3二	本文中の表現がたとえている内容をとらえて書く	表現の仕方に注意して読み、内容について理解する									16.4	35.5	18.7
3三	二つの表現に共通した面白さについて自分の考えを書く	文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えを明確に説明する									19.2	62.0	22.0

【設問別分析】

1 情報を読む(新聞)

①は、書かれている情報を的確に関連付けて読むことと、記事文における表現の仕方をとらえること、さらには、記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くことができるかどうかをみる設問である。設問一では、書かれている情報を的確に関連付けて読むことができるかについて短答式で、設問二では、記事文における表現の仕方をとらえることができるかについて選択式で、設問三では、記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くことができるかについて記述式でそれぞれ問われている。

【設問一】書かれている情報を的確に関連付けて読むこと

- ・トップ記事で紹介している施設が開設された年月を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】記事文における表現の仕方をとらえること

- ・トップ記事とコラムとを比較し、書き方の特徴として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くこと

- ・新聞を読んで、興味をもった記事について感想を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回り、正答率も低い。

「読むこと」領域における「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること《内容把握や要約》」や同じ領域の「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているか上回っている結果となったが、「書くこと」領域における「伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること《事柄や意見》」や「読むこと」領域における「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと《主題や要旨と意見》」については、全国の平均正答率をやや下回る結果となり、正答率も低かった。

身の回りに溢れている大量かつ多様な情報の中から目的や意図に応じて必要な情報を収集したり、それらを適切に活用したりしていく力を身に付けていくことが必要である。そのためには、情報を的確に読んだり、収集した情報に対する自分の意見や感想をもたせたりするような指導の工夫も必要である。新聞の特性を活用することは、ものの見方や考え方を広げていくための手立てとして有効である。また、一人一人の読書生活を豊かにしていくことにもつながり、自己を向上させようとする態度を養う面からも効果的である。

2 資料を作成して発表する（消しゴム）

② は、資料を作成し発表に使用する際に、資料の表現の仕方をとらえることと、文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くこと、さらに、資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明することができるかについてみる設問である。設問一は、資料の表現の仕方をとらえることができるかどうかについて選択式で、設問二は、文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くことができるかどうかについて短答式で、設問三は、資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明することができるかどうかについて記述式で、それぞれ問われている。

【設問一】資料の表現の仕方をとらえること

- ・提示する資料に表れている工夫として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。

【設問二】文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くこと

- ・提示する資料に、説明したい内容を簡潔に書く設問では、全国の平均正答率を、やや上回っている。

【設問三】資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明すること

- ・資料の修正の方法を選択し、修正の具体的なやり方とその理由を書く設問では、全国の平均正答率を、やや上回っているが、他の設問と比較して無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」や同じ領域の「目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること《情報の活用》」、さらには、「書くこと」領域における「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと《記述》」については、全国の平均正答率を、やや上回っているが、「話すこと・聞くこと」領域における「話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりすること《構成や論理》」や、「書くこと」領域における「伝えたい事実や事例、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること《事柄や意見》」については、全国の平均正答率を、やや上回ってはいるものの、無解答率が高かった。

伝えたい内容を聞き手に的確に伝えるためには、説明するための資料を作成するなどして、分かりやすく話すことが大切である。その際、収集した情報を目的に応じて話の中心的な部分と付加的な部分とに整理し、聞き手の理解が得られるように構成に注意して発表内容を考えるなど、内容と形式との両面から考えるよう指導することが重要である。説明や発表などの言語活動を行う際には、自分の意見や考えがより効果的に相手に伝わるよう、話の構成や展開を工夫することが大切である。映像などにより記録した発表の様子を見直したりする学習活動を取り入れることも有効である。

3 文学的な文章を読む（「吾輩は猫である」）

③ は、文脈の中における語句の意味を的確にとらえることと、表現の仕方に注意して読み、内容について理解すること、さらには、文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えを明確に説明することができるかどうかをみる設問である。設問一は、文脈の中における語句の意味を的確にとらえることができるかについて選択式で、設問二は、表現の仕方に注意して読み、内容について理解することができるかについて短答式で、設問三は、文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えを明確に説明することができるかについて記述式で、それぞれ問われている。

【設問一】文脈の中における語句の意味を的確にとらえること

- ・前後の関係から語句の意味をとらえ、適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回ったりやや上回ったりしている。

【設問二】表現の仕方に注意して読み、内容について理解すること

- ・本文中の表現がたとえている内容をとらえて書く設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているが、正答率は低く、他の設問と比較して無解答率が高い。

【設問三】文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えを明確に説明すること

- ・二つの表現に共通した面白さについて自分の考えを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているが、他の設問と比較して無解答率が高い。

「読むこと」領域における「文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること《語句の意味や用法》」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っていたり、やや上回っていたりする結果となった。また、同じ領域の「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、全国の平均正答率と比較して今年度は上回る事となり、指導の改善が図られている結果となったが、無解答率が高くなっており、今後も一層の指導の充実を図っていく必要がある。併せて、「書くこと」領域における「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと《記述》」については、平成 20 年度は全国の平均正答率を上回り、平成 21 年度はやや下回る結果となっていた。今年度は、上回る結果となり、改めて指導の改善が図られていることがうかがえる。ただし、無解答率が高く、今後においても、根気よく書く指導の充実が必要である。

文脈の中で語句の意味をとらえるためには、前後の文章とのつながりや使われている漢字の意味を手がかりにして、語句の意味を推測し、文脈に戻すことで文章に書かれている内容を大筋でつかむ力が必要となる。併せて、文学的な文章を読むに当たっては、これまでの読書生活を振り返らせ、幅広く文学作品に目を向けさせることで、ものの見方や考え方を広げていく指導も必要である。近代以降の代表的な作家の作品を取り上げることは、使用されている語句や仮名遣い等の表記上の面で子どもたちには難解に感じる部分もあるが、慣れ親しませることで、古典をはじめとする我が国の伝統的な言語文化の理解を深めるきっかけになると考えられる。

国語学習に関する意識結果 【中学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	23.2	37.2	26.1	13.2
国語の勉強は大切だと思いますか	52.2	35.1	9.2	3.0
国語の授業の内容はよく分かりますか	21.5	48.9	22.7	6.5
読書は好きですか	49.0	22.8	17.0	10.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	36.6	41.5	16.1	5.4
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	9.3	30.7	44.1	15.4
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	8.2	32.3	42.5	16.4
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	16.2	41.9	32.3	9.0
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	20.9	44.0	27.2	7.2

（単位は％）

< 設問分析 >

「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 60.4%（平成 19 年度小学 6 年は 63.1%）となっており、全国平均を 3.2 ポイント上回っている。本設問においては、肯定的な回答が、平成 19 年度調査では 57.9%、平成 20 年度調査では 59.8%、平成 21 年度調査では 61.1%と、少しずつ増加する傾向を示してきたが、今年度は下がる結果となった。併せて本市と全国平均との差は、昨年度は 4.4 ポイント上回っていたが、今年度は 3.2 ポイント上回るにとどまっている。今後とも、生徒の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。

「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 87.3%となっており、昨年度調査の 87.0%を若干上回る結果となった。平成 20 年度調査は 86.1%だったので、少しずつ増加している傾向にある。ただし、全国平均と比較すると今年度は 1.7 ポイント低くなっており、平成 21 年度調査の 0.6 ポイント低かった数値からさらに差が開いた結果となっている。平成 20 年度調査では 1.2 ポイント低かったことを考慮しても、生徒の意識の改善が期待通りに図られていないと考えられる。今後は学習した内容が生活の中で活用され、生徒に国語の必要性を感じさせるような授業づくりが一層求められる。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 70.4%となっており、全国平均を 0.5 ポイント上回っている。昨年度は 70.6%で、全国平均を 1.8 ポイント上回る結果と比較してみると、全国を上回る割合が小さくなったように感じられるが、平成 20 年度調査では 67.3%と全国平均を 0.5 ポイント上回り、平成 19 年度は全国平均を 1.7 ポイント下回った項目であることを考えると、少しずつ分かる授業づくりに向けて工夫改善が図られてきたことがうかがえる。

「読書は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が71.8%となっており、全国平均を3.0ポイント上回っている。昨年度調査では肯定的に回答した割合が68.5%で、全国平均を1.1ポイント上回っていたことと比較すると、確実に読書に対する生徒の興味・関心が向上してきていることがうかがわれる。現在、札幌市では、「読書」を生涯にわたる学びの基盤とおさえて、各学校における朝読書の推進等に力を入れているところであり、今後ともあらゆる機会を通じて、読書に親しむ活動を積極的に展開していくことが求められる。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、78.1%で全国平均を2.8ポイント下回っている。昨年度調査では、76.9%で全国平均を1.5ポイント下回っていたので、今年度は肯定的に回答した生徒が若干増加したものの、全国平均との差は広がったと考えられる。平成19年度及び平成20年度において肯定的に回答した割合は、それぞれ83.6%、77.9%であったことから、この項目については、肯定的な回答が年々減少する傾向に歯止めがかかった状況となったと考えられる。生徒が国語の学習の有用性を感じることでできるような工夫した学習指導の展開が今後とも求められる。

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、40.0%で全国平均を5.8ポイント下回っている。昨年度調査では、肯定的に回答した割合が39.9%で、全国平均を1.9ポイント下回っていた。また、平成20年度調査では40.6%で、全国平均を2.5ポイント下回っており、全国平均と比較して、肯定的な回答が少ない傾向が続いている。今後とも、資料を有効に活用して、根拠を明確にして自信をもって作品を批評したり意見を述べたりすることができるような指導の工夫が求められる。

「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問では、肯定的に回答した割合は40.5%で、全国平均を1.8ポイント下回っている。昨年度は肯定的に回答した割合は39.1%で、全国平均を0.2ポイント下回っていたことから、肯定的に回答した割合は若干増加してはいるものの、全国平均との差は広がっている傾向がある。平成20年度は39.4%で、全国平均を0.5ポイント下回っていた。自分の意見が相手（聞き手）に正確に伝わるように心がけることは、日常の言語活動においても大切なことであり、あらゆる機会を通じてよい面を積極的に評価しながら、場面や相手に応じた効果的な話し方を意識させる指導の充実が一層求められる。

「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、58.1%で全国平均を0.4ポイント上回っている。昨年度は肯定的に回答した割合は、57.7%で全国平均を2.6ポイント上回っていたので、肯定的に回答した割合は若干増加傾向にあるものの、全国平均との差は縮まっていることがうかがえる。平成20年度は57.8%で、全国平均より2.3ポイント上回っていた。根拠を明確にして書くことは、説得力のある表現につながることであり、今後とも、書くときの心構えとして一層意識させる指導の充実が望まれる。

「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、64.9%で全国平均を1.2ポイント上回る結果であった。昨年度は肯定的に回答した割合は、63.5%で全国平均を2.8ポイント上回る結果であったことから、肯定的に回答した割合は若干増加傾向にあるものの、全国平均との差は縮まっていることがうかがえる。平成20年度は64.2%で、全国平均より2.7ポイント上回っていたので、この項目については大きな変化はなかったとも考えられる。文章の構成や工夫された表現を、書き手の意図を考えながら読み進めていくことは、同時に中心的な部分と付加的な部分や事実と意見を区別しながら読むことにもつながり、要約する学習にも効果的な読み方であるので、今後とも一層の指導の充実が求められる。